

# あるLMSを活用した 法学教育の実践の取り組み

宮崎産業経営大学  
法学部 准教授

村田 治彦



# 目次

はじめに—前提事項

1. 紙ベースの場合
2. Moodleの小テストModuleの場合
3. MoodleのLesson Moduleの場合
4. Moodle Ver.1.9の利用停止
5. 新しいLMSの必要性
6. 法学と認知心理学の接点
7. 法学と教育心理学の接点
8. Google Appsの特徴
9. 知識の構造化とWebデザイン
10. Google AppsのLMS活用の可能性
11. その他の試み

おわりに



# はじめに—前提事項

- Google Apps for EducationをLMSとして活用
- 正課の授業でない「学内塾」の取り組み
  - ① 対象学生；法律実務家を目指す、やる気のある学生の初学者教育
  - ② 教育目的；試験の合格
  - ③ 教育内容；自由度が高い
  - ④ 学習方法；ゼミ形式＋ICT教育の導入  
予習型でなく、復習型（入門講座→LMS）→講座→模擬試験



# 1. 紙ベースの場合

- 資格試験の問題集

問題→解説→正誤

情報が平面的であり、有意味化・構造化されていない



## 2. MOODLEの小テスト MODULEの場合

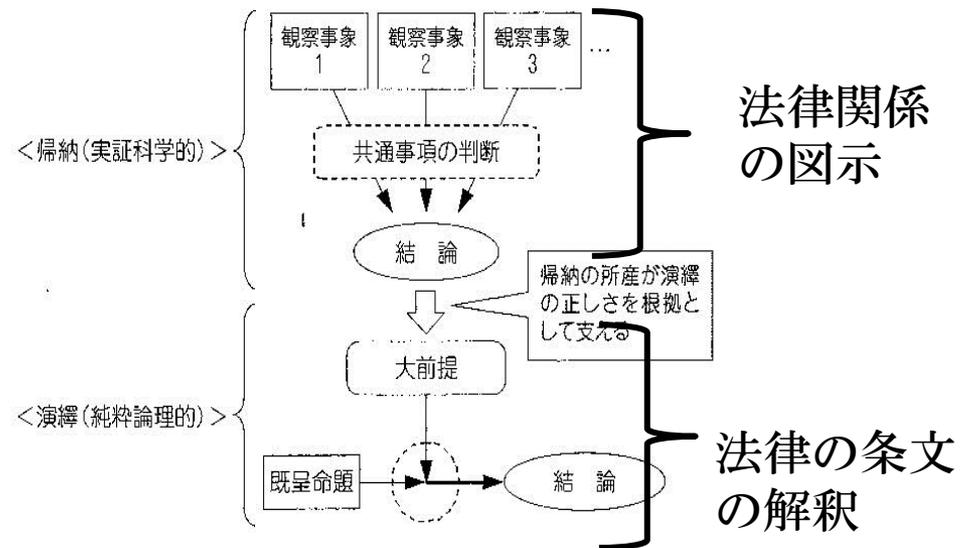
- ① 穴埋め問題→概念の理解はできるが、  
試験形式に合わない
- ① 多肢選択問題→試験形式に合うが、  
紙ベースの場合と変わらない?!



# 3. MOODLEのLESSON MODULEの場合

- 法的思考については[平成21年度私情協発表を参照](#)

法の基本
テーマの解説
問題の解説



- 情報がLesson Moduleのシステムに沿って内から外へ
- 法的思考に見合った[知識の融合化](#)



# 4. MOODLE VER.1.9の利用停止

- サポート停止によるセキュリティの問題



# 5. 新しいLMSの必要性

## ■ Google Apps for Educationの導入

### 〈メリット〉

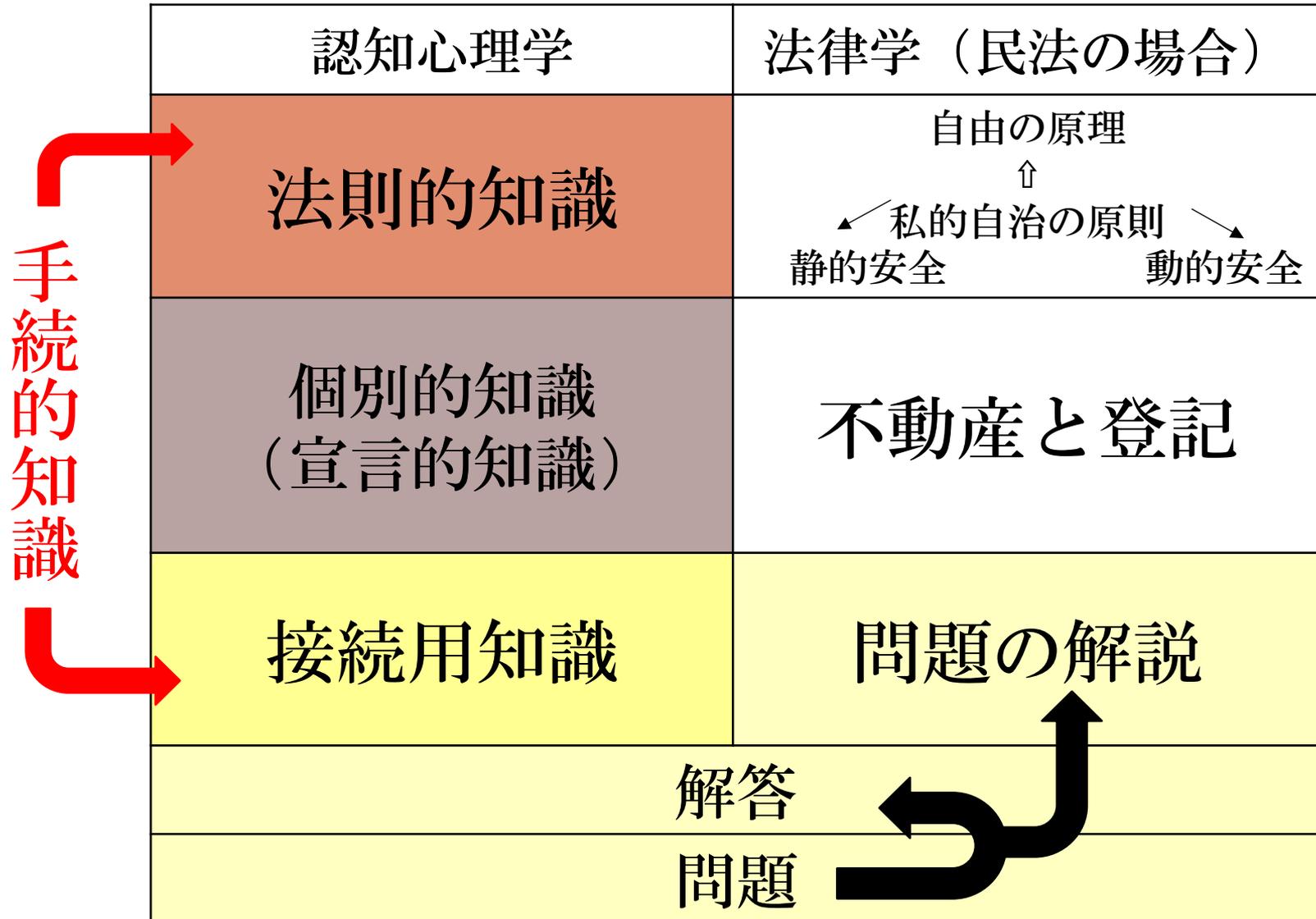
- i. 無料
- ii. サーバーの準備が不要
- iii. 職員による管理が不要

### 〈デメリット〉

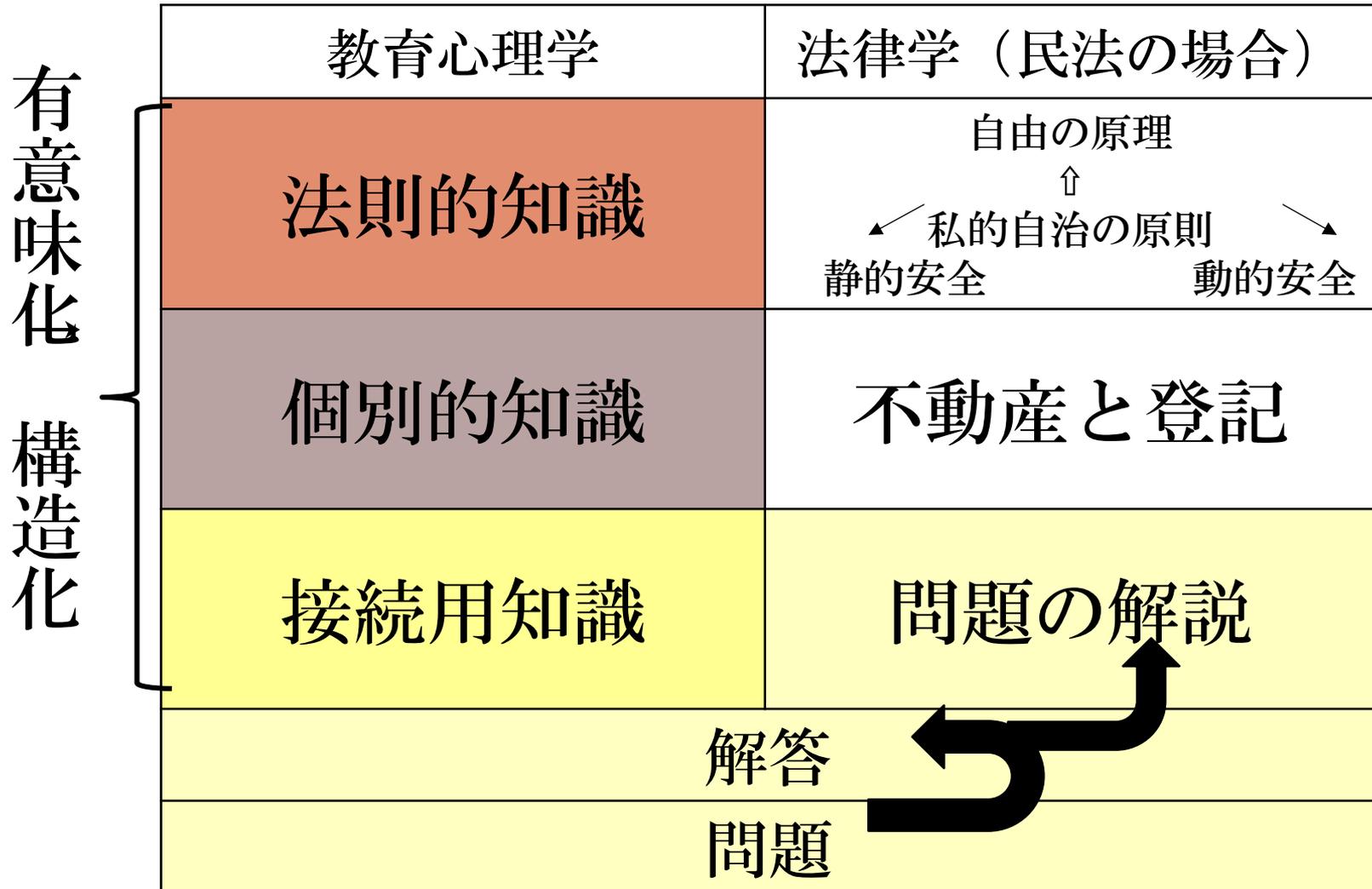
- i. 教育対応でない
- ii. 活用例が少なく、ハードルがある



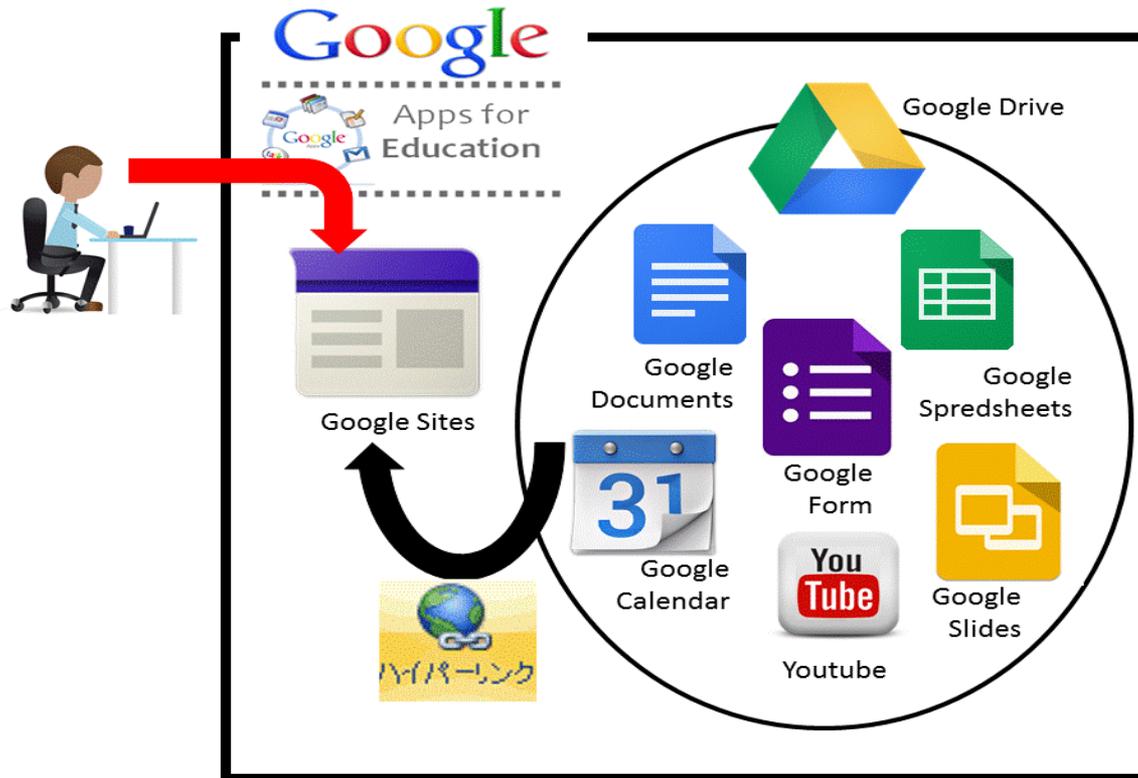
# 6. 法学と認知心理学の接点



# 7. 法律学と教育心理学の接点



# 8. GOOGLE APPSの特徴



- Google Driveに保存したデータを共有し、Google Sitesで公開（外から内へ）



# 9. 知識の構造化とWEBデザイン

- Google Sitesでできること



# 10. GOOGLE APPSのLMS活用の可能性

## ■ ハイパーリンクの活用

ハイパー「テキスト」 → 情報の構造化・有意味化

認知心理学	法律学（民法の場合）
法則的知識	自由の原理 ↑ 私的自治の原則 ← 静的安全      動的 안전 →
個別的知識 （宣言的知識）	不動産と登記
接続用知識	問題の解説



# 1 1. その他の試み

- A) 模擬試験→Google Form
- B) 記述式問題への対応→ Google Documents



# おわりに

- 「情報の構造化」によるLMSの可能性
  - ① 法的思考
  - ② アクティブラーニング
- 今後の課題
  - ① 「ナビゲーションシステム」の工夫
  - ② ユーザーインターフェースの配慮



# 謝辞

1. 宮崎産業経営大学経営学部 白石敬晶教授  
( Webサイト構築演習等担当 )  
Google Apps導入時のアドバイザー
2. (株)ギャランティ 前田利人 氏  
Google Apps技術支援
3. ミカサ商事株式会社 Google Apps 担当  
Google Appsの大学導入の例の情報提供

